



◇◇◆◆◇◇ 国際通貨研究所メールマガジン（第 15 号 2013/6/11 発行）

◆◆◇◇ Institute for International Monetary Affairs (IIMA)



<http://www.iima.or.jp/>

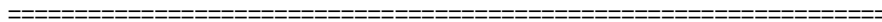


※本メールは配信専用のアドレスからお送りしております。

返信をいただいても当方では受け取ることができません。

閲覧には Adobe Reader が必要です。

Adobe Reader のダウンロードはこちらから→ <http://get.adobe.com/jp/reader/>



#### 1. 理事長 行天豊雄のコラム 『安定はお預け』

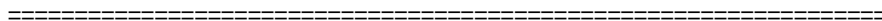
為替・株価・金利の動きがまた不安定になってきた。アベノミックスで株は上がるもの、円相場と金利は下がるものと思っていたら、そうでもないという話である。

一番の驚きは長期金利だろう。日銀の大量 JGB 買入力でアベノ…

(株式会社マネーパートナーズへの寄稿)

(全文はこちらから)

<http://www.iima.or.jp/Docs/merumaga/2013/20130611gyoten.pdf>



#### 2. IIMA 名誉顧問 (前 BIAC 事務局長)

浅見 唯弘のコラム 『民間主導の経済成長こそ今必要とされる政策だ』

日本は、主要先進国で例を見ない 20 年にも及ぶ経済停滞とデフレを体験した。日本の 20 代の若者は力強く成長する経済を知らない。彼らが目の当たりにしたのは、デフレと円高にあえぐ内向き志向の日本企業と経済の地盤沈下に伴う日本の国際的な発言力の低下であった。…

(IIMA メールマガジンへの寄稿)

(全文はこちらから)

<http://www.iima.or.jp/Docs/merumaga/2013/20130611asami.pdf>

■ 今月の新着レポート

1. 「アジア債券市場育成の取組み状況」

アジア債券市場育成のための国際的取組みが本格的に始まってほぼ10年が経過する。足許までのデータ推移、市場活性化に向けた、アジア債券市場イニシアティブ（ABMI）による最近の取組み、APEC ビジネス諮問委員会（ABAC）によるアジア太平洋金融フォーラム（APFF）設立の動きなどを紹介する。

[http://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2013/NLNo\\_16\\_j.pdf](http://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2013/NLNo_16_j.pdf)

2. 「Evolving International Discussions on Credit Rating Agencies and Japanese Registration system for the Agencies : Can Japan's experience be any lesson to Asia?」

「格付会社をめぐる国際的議論の展開と日本の格付会社登録制度  
～アジアには日本の経験が参考になるか?～」の英語版

[http://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2013/NLNo\\_15\\_e.pdf](http://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2013/NLNo_15_e.pdf)

3. 「フィリピン銀行セクターの現状」

フィリピン銀行セクターの総資産は拡大しているが、同国の経済規模に比べると、未だ低水準である。不良債権処理が一段落した現在、フィリピン銀行セクターは、金融仲介機能の強化によって、好調なフィリピン経済の一層の飛躍に資することが求められる。

[http://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2013/NLNo\\_14\\_j.pdf](http://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2013/NLNo_14_j.pdf)

4. 「東京市場での円元取引活性化に向けて」

昨年6月に東京市場で日本円と人民元の直接取引開始されてから、間もなく1年が経とうとしているが、取引量は期待されていたよりも伸び悩んでいる。東京市場での円元取引活性化に向けて必要なことは何か、改めて考えてみたい。

<http://www.iima.or.jp/Docs/topics/2013/235.pdf>

5. 「The Capital Liberalization and Financial Reform are the Key to the Renminbi Internationalization

「人民元国際化の鍵となる資本自由化と金融改革」の英語版

[http://www.iima.or.jp/Docs/report/2013/no1\\_2013\\_e.pdf](http://www.iima.or.jp/Docs/report/2013/no1_2013_e.pdf)

6. 「ユーロの憂鬱」

ユーロは、ギリシャにおける国債問題を契機に、一時は崩壊さえ議論された。2012年後半から幾分小康状態を取り戻しつつあるが、今年に入りキプロス問題をはじめ様々な問題が噴出し、創設当初から懸念された異なる経済構造の国々の中で、統一通貨を維持していくことの難しさに、ユーログループは改めて直面している。

[http://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2013/NLNo\\_13\\_j.pdf](http://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2013/NLNo_13_j.pdf)

■ 今月の IIMA

6月は、ジョンズ・ホプキンス大学から研修生をお迎えします。IIMAでは、これまでも研修生を受け入れておりますが、外部の方にIIMAの活動をより深く理解していただく貴重な機会となっております。約2ヵ月の短い期間ですが、双方にとって実り多いものになることを期待します。

研究活動では、今年度もさまざまな外部機関からの調査を受託する予定です。内容としては、アジア地域の金融システム、金融機関、金融制度に関する調査が中心になると予想され、来るべき入札公告に向けて準備を進めているところです。成果については、何らかの形で順次IIMAのホームページでお伝えしていく予定です。

---

次号 : 2013 年 7 月 10 日配信予定

【メールマガジンの配信停止・配信先変更】

<https://m.entryform.jp/m/iima/>

【各種お問い合わせ】

[admin@iima.or.jp](mailto:admin@iima.or.jp)

◇発行◇\*\*\*\*\*

公益財団法人 国際通貨研究所

〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町 1-3-2 三菱東京 UFJ 銀行日本橋別館 12 階

[HP] <http://www.iima.or.jp>

\*\*\*\*\* Copyright (C) IIMA All Rights Reserved. \*\*\*\*\*